

# 女川町 支援活動レポート

2012.1.20 ~ 2012.1.22

(宮城県牡鹿郡女川町 総合運動場にて)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成24年1月30日(月)

東北被災地応援団 白金支部

# 女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により亡くなられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に対し心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

## 1. はじめに

今回の女川訪問は、今までにない大がかりなものとなりました。横浜市立万騎が原小学校と南本宿小学校の生徒さんが、自ら育てたもち米を、被災地に届けたい!!!との思いを受け、大餅つき大会を行う事といたしました。これに合わせ、チャリティーイベントにご参加頂いたパフォーマーが、女川訪問を希望して下さったことにより実現した女川でのミニLIVE。少しでも、仮設住宅から外に出る機会を作り、新たなコミュニティ形成のお手伝いがしたい、という思いからでした。これまでと違い、物資支援(青空市場)を行っていません。女川にて開店し始めた商店を応援する為、物資を配布するよりも、お土産購入等、微々たる支援でも、女川の経済活動を応援するものにシフトしております。また、災害FMへの出演依頼を受けました。地元の方からも、再訪問を喜ばれる様子もみられました。応援団と、女川住民との関わりが一層強くなり、支援を通し、人間同士の関わりが作られてきていると認識できる支援となりました。皆さまの支えにより、継続的な支援を続けてこられた手ごたえと、これからも、まだまだ、支援活動は必要とされている事をお伝え出来ればと思っております。

## 2. 現在の女川町について

被災から10カ月。雪は少ないものの、吹く風は刺す様に冷たいです。復興計画が公となり、今までと違う町の計画に多くの方が戸惑っています。行政が、この復興計画を実施する為には、まだまだ話し合いが必要です。伴い、女川町の中心部は、剥き出しの地をさらしたまま、時が過ぎる事が決まっています。心の傷の大きさは同じなのに、無理やりでも前を向く人々と、内に籠る人々。イロイロな温度差が広がってきています。前が見えない不安に押しつぶされそうな日々です。私達を忘れないで欲しい。押し黙られた後に出てくる言葉です。

## 3. 活動報告

### (1) 準備期間

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| A. 準備期間：2011/10 ~ 2012/1/20   | B. 活動期間：2012/1/20 ~ 2012/1/22 |
| C. 餅つき大会<br>・具沢山汁(1000食)<br>・きな粉餅(1000食)<br>・からみ餅(1000食)<br>・醤油海苔餅(1000食) | D. お茶会<br>・お茶、コーヒーなど<br>・お茶請け |

### (2) 活動レポート

寒い、寒い、女川の冬に、楽しい事をお届けしたい。大餅つき大会+ミニLIVE をやる事が決まった。とても良いアイデアに思えた。しかし、これまでの我々の活動から考えると、かなり大がかりであり、対象規模も大きい。不安が過らない日の無い2011年10月であった。

構想を掘り下げ、具現出来る自信が出て来たのは、11月。徐々に具体的な形へと落とし込み、必要物品を挙げていた。ありがたいことに、支援物資のご協力を名乗り出て下さる企業、個人が増えていた。平行して活動に賛同し、ご参加頂けるメンバーも増えていった。12月に入り、全体でのミーティングが始まった。全体リーダーはいつも後方支援を全て取り仕切っている川端。川端は、初の女川入りであったが、これまでの支援活動の全ては、彼女無く語れない物であった。Aチーム、Bチームに分かれ、それぞれのリーダーを中心に、チーム毎のミーティングも熱く行われた。10月に行ったチャリティーコンサートにて、気持を同じくした音楽隊の皆さまも、女川でのライブに向け着々と練習を行っていた。

### 12月30日 餅つき大会練習

白金にある重秀寺のご好意にて、お寺のお餅つきの場をお借りして、15kg分の餅をつかせて頂いた。横浜市立万騎が原小学校のお餅つき道具をお借りしていた。後藤は多くの物品を手で運んだ。朝9時から、お寺の中庭にて、湯沸かし、蒸し、餅つき、餅成形までを、経験豊かな小澤雅のリードの基、皆で練習した(残念ながら、小澤雅は現地参加出来なかった)。快晴の東京における練習であり、本番とは勝手が異なる事が予想されたが、実際に、お餅つきの経験があるメンバーは少なく、この経験は当日大きく生きる事となった。

## 1月14日 最終ミーティング

初めて参加するメンバーの緊張した面持ちが多く見られた。今回の主旨、女川の現状、我々の今までの活動、日程、お餅つきとミニライブの流れ、餅つきを安全に運ぶ為の注意、持ち物について、それぞれのチームでミーティング…。みっちり2時間。皆、一言の文句も言わず、集中して聞いていた。気付けば、43人の大所帯となっていた。あと1週間。

## 1月18日 出発2日前

支援物資が着々と到着した。今回も多くの企業、個人からのご支援を頂いた。この思いを無駄にしない様、個人の思いに走らないよう、支援をしなくては、強く意識した。川端の物品確認作業は深夜におよんだ。

## 1月19日 出発前日

後方支援部隊が具沢山汁の為の野菜を刻み、物品の確認をしていた。毎度の事ではあるが、この部隊が機能して頂ける事により、我々の活動は維持されている。いつも、いつも、笑顔で縁の下の力持ちをして下さる。感謝を伝えても、嬉しそうに、恥ずかしそうに、手を振るばかりである。我々の活動をもっと、もっと有意義にしたい!!! と強く思う。

## 1月20日 出発当日

東京は、今年一番の冷え込みとなった。朝から、雪、雨、みぞれと色を変えながら、空は濁っていた。

16時

斉藤は今回レンタルするトラックを横浜から運んだ。



バランスを考えて積み直し中

## 18時半 米研ぎ

小澤徹、府川、後藤、斉藤、が米を研ぎ、水に漬ける為に集まった。もち米90kg、研ぐのも大変だ。機械を用い、轟音と共に研いでゆく。雪が降っていた。

## 20時半 荷物積み込み

今回運ぶ物品は、白や杵、各種機械等、重くかさ張る物が多い。小澤(徹)、藤原、浅野、近藤、斉藤、工藤が悩みながら積んで行く。結局、全ては乗り切らず、バスの荷台へと移す事となった。時間通りにことは運んでいた。

## 22時半 集合時間

43人。初参加者も多く、集合時間等に心配があった。しかし、杞憂であった。ほぼ全員、時間通りに集合した。

## 23時 出発

初めての大型バスに乗っての女川入りである。後藤、安部が点呼を取り、出発。緊急車両、トラック、ほぼ同時の出発となった。東北自動車道の交通情報を心配しながらの出発となった。トラックはスピードを増し、仮眠場所の菅生を目指していた。バスは、出発後、集金を終え、12時半消灯となった。1時間おきにPAにて休憩をとり、徐々に多くなる積雪に身体が縮む。



出発後の車中

こんなに寒い日に、お餅つきを楽しんで頂けるのだろうか？ 心配であった。

打ち消す様に、元気に空を見上げた。出来る事をやる支援を。

## 1月21日 4時

バスが、菅生PAに到着。すでに、トラックと緊急車両は到着し、寝息を立てていた。仮眠をとった。

## 5時半 出発

皆が態勢を整えていた。寒さに弱い東京の人間は、それなりに準備が大切であった。靴下を二重にし、股引を履き、もう一枚着込む。失礼があっはいけないが、女川で風邪を引くことは避けたかった。支援活動がどんな理由であれ、間接的にでも、迷惑をかけてはいけなと考えた。眠気と、緊張がバスの中に充満していた。さあ、女川へ。



明方の仙台南部道路

## 7時半 女川到着

雪が降る女川総合運動場。誰も来ないかもしれない。不安になった。

しかし、2週間前に貼って頂いたポスター（お米を提供して頂いた小学生が書いて下さった）を見た方達が見え始めた。  
お餅つきですよね？ 話しかけて下さる。体感温度が少し高くなった気がした。

以下、活動内容は、各グループリーダーの報告によります。

### Aチーム（餅つき、アナウンス、誘導、お茶のサーブ）

リーダー： 水澤 府川

メンバー： 石垣、小澤、斉藤、石川（篤）、石川（稚）、佐藤、安部、飯星（広）、難波、益田、藤原、  
末次、木津、末石、大井、金子 計18名

今回は体育館内のロビーでミニライブを行うので、アーチ状に椅子をセッティング。  
一緒にお茶を振舞うので、石川（稚）が中心となってお茶の準備をしていきました。  
9時、アナウンスチームは2人1組にとり、総合運動場横に建てられた仮設住宅、野球場内に建てられた仮設住宅1戸1戸に、手渡しで一枚一枚チラシを配り、声を掛けて行きました。  
今回の仮設住宅は343世帯約1000名の方が生活されている大きな規模のものでした。  
地区長さんや取りまとめしている人がいるかを伺うと、まだ自治会も立ち上がっていないし、まとまるにはまだ時間が掛かるだろうとのことでした。  
沢山の方が、「寒いのにありがとう。あとでうかがいます」と笑顔で玄関先まで出てきて下さいました。

11時から餅つき開始の予定でしたが、皆様の出足が早かった為10時半頃から餅つきを開始。  
難波の盛り上げにより、総合運動場の前を通る人や、アナウンスチームが声をかけた方々が、次々と集まってきて下さいました。事故防止の為に、ロビー内での食事を勧め、栃木から手伝いに来ていただいたボランティアスタッフとともにお茶をお配りしました。  
やっぱりつきたてのお餅はおいしいね～と笑顔がこぼれていました。

11時過ぎからはミニライブを開始。  
まずはじめはスティールパンのMAYURI HIRABAYASHI BANDの皆さん。  
初めて見る楽器に、お子さんは興味津々。会場に来ていただいた皆さんをうまく盛り上げ、楽しい演奏会の開始です。  
休憩を挟みつつ飯星美樹さん、リグレッツさん、BUN益田さんの順で進んで行きました。  
演奏会の最後には、女川の方々が演奏をして会場を盛り上げて下さいました。

餅つきは、悪天候のため復興支援センターよりお借りしたテントの下で行う事となりました。  
あまり風が強くなかったとはいえ、底冷えする中、たくさんの方にお餅をついていただきました。  
最初は、見ているだけのお父さんたちも、一緒にやりませんかとお願いと、よし！と力強く杵を振るっていただけました。ベテランのお母さんから、かえしのレクチャーを受け、子供達と一緒に餅をつき、たくさん笑顔にあふれていました。  
何よりも皆の笑顔がありがたい、と言って頂きました。

13時になり餅つきも落ち着いた頃、弊会川端のラジオ出演が始まり、皆作業の傍ら耳を傾けました。  
ラジオの効果もあってか、地元の方以外にも、茨城県つくば市から支援活動に来ていた方や、神奈川県から調査にきていた方など、餅つきを通して多くの立場の人が会場には一様に介していました。  
今回感じたのはやはり、「きっかけ」が必要であること。話したいが、顔の知らない人に自分から声を掛けるまでは出来ない。コミュニティーを形成していくことが如何に困難であるかを肌で感じる事が出来ました。明けない夜はない、やまない雨はない。私たちは、朝を迎えるまでの話し相手、雨の中指す傘を持つ手を支えることしかできません。地道にできることを継続していくしかないと感じながら、撒収となりました。



杵と臼を暖め中



ロビー内でお茶の準備中



スティールパンの楽しい演奏



ヨイショ～ ヨイショ～

## Bチーム (もち米蒸し、餅つき機、餅成形、具沢山汁作成、配食)

リーダー： 相原、浅野

メンバー： 飯星(美)、五十畑、瓜田、後藤、小林(由)、小林(伸)、近藤、鹿内、下神、高島、田中(ゆ)、田中(伸)、中橋、平林、藤本、三上、蜜口、安武 計22名

何らかお手伝いという形で、被災地の方々にご参加頂けたらコミュニケーションとして、より良いという思いがありました。皆で裏方に徹しイベントを底から支えようと誓いました。当日までに集まったメンバーで重ねてきた打ち合わせやリハーサルのお陰で、各役割の班ごとにスムーズに準備をスタートしました。

まず真っ先に米蒸し班がお湯の準備にかかります。今回は3台のプロパンガス・6台の五徳をもち米を蒸し、お湯を沸かすだけのためにセット。雪や雨のためにと災害センターの方が貸してくださったテントを張ると、さながら土間の調理場のようにになりました。

前日のうちに米磨ぎを行って下さったお陰で大きなポリバケツ2つに用意されたもち米は水をしっかり吸ってふっくら。蒸しを待つばかりです。心配されていた天候は曇りと小雨。幸いこの日は女川に多い強風は無い。この天候が火力に大きく左右するため心配でしたが、微風は、ブリキで作成頂いていた五徳の火廻りの覆いでうまく対処出来ました。やはり想定より少し時間が掛かりそうということで少し前倒して9時過ぎに蒸しをスタートしました。気温が下がり、蒸し時間が延びていました。

配食場には小学生が用意してくれた「もちつき大会」の文字。

千切り絵で出来たととても素敵なものでした。

テントの上に取り付けると遠くからも良く見え、いよいよイベントらしさが出てきました。

また餅をお渡しした方がそのまま温かい中でライブを聴きながら食べて頂けるよう、導線を考えながらテーブル位置を工夫します。雨や雪など刻々と天候が変わるためテント下で成形・味付け・配食を収める場を作ることがなかなか大変でした。

小学生みんなの稲作の様子、被災地の皆さんへのメッセージも入り口のガラス戸に貼りました。

「辛味餅」のための大根おろしを作り出します。4人係りで一斉に摩り下ろしバット一杯に、また継ぎ足しも出来るように用意します。他にも磯辺餅ときなこ餅を用意しました。

今回一番懸念されていた「餅を喉に詰まらせることなく食べて貰う」という点は、餅を成形する際誰が参加しても"詰まりにくい"サイズに出来るようにと、下神作成の紙粘土で作った模型を置きました。他にも磯辺餅ときなこ餅を用意しました。本物の餅と混ざらないように赤く塗った模型はみなが目印になりました。その後、具沢山汁の班も準備を開始。大量のお野菜の提供や、後方支援の方々の前日半日掛かりの下ごしらえに、初めての参加者は感動していました。給食用のような寸胴と鍋に具の配分を考えながら具材を分けてゆきます。野菜が煮え始めると、大根やごぼうといった根菜の良い香りがあたり一面に立ち上りました。味付けはこのあたりの皆さんの好みに合うように、しょうゆベースの少し甘さもある汁。担当した川端、飯星、瓜田は何度も何度も味見をしながら味を整えて行きました。この作業は別鍋で具材・汁を用意して順次足し、そのたびに全体の配分が変わり味を整え直す必要があったため片付けの14時半まで続きました。最後には、もう味が分からなくなっていました。この具沢山汁は、大変好評でした。それもそのはず提供頂いた赤鶏を使ったなんと驚沢なもの。味付けを決めた川端から「鶏の味が十分美味しいんだもの。他何にも要らないわ！」との言葉通り鶏のお出汁と野菜の甘みで本当に美味しい汁で、心まで温まったようです。

10時を過ぎた頃からは、様子を見に来る方も増えていました。「何時くらいに始まりそう?」とか「にぎやかでいいねえ〜」「ライブはどこでやるの?」と声を掛けて頂き、楽しみにお待ち頂いている様子が分かります。

この頃から「寒い中でも集まって頂けそうだ」という感触を得てほっとしました。もちつき大会がスタートすると、掛け声に誘われ同時に、もちを食べるために来る方が想定されたため、第一弾はもちつき機でこねた餅で配食も準備しました。

10時半 餅つき大会開始の頃には列ができるほどの人が集まって下さいました。

12時~13時 頃がピークで、皆さんお昼にあわせて来て下さいました。

この頃が成形班の忙しさのピーク!手の空いたメンバーも総出で餅をカットしてゆきます。



朝一番、蒸し器のお湯が沸きました



餅つき大会 看板設置中



全仮設住宅に一軒ずつ案内しました



美味しそうな匂いがしてきました

しかし最初から作業している成形班のメンバーの手際の良いことと言ったらありません。見本通りのサイズで、次々に切り出してゆき、まるでプロのもち屋さん。忙しさの中でも味付けをし、配食をするメンバーはひとりひとりの現地の皆さんに声掛けをして希望をお聞きし、甘いものが好きな人にはきなこを多目に、しょっぱいものが好きな人には磯辺を多目に、汁ものは熱いから持つところに気をつけて等、女性らしい配慮で笑顔を絶やさず手渡しし続けました。汁物は途中から汁もの班のところで受け渡しとなりました。アースプレケーション高橋さんのグループメンバーも加わり、こちらは屋台のおにいちゃんのような雰囲気濃いメンバーで配食しました。そして沢山の方から「つきたてで温かくて美味しいねえ」「このお汁はお代わりしても良いの？温まるし野菜が沢山で美味しいよ」と声を掛けて頂きました。



どんどん手際よくなりました

蒸し場では、湯の量を常にモニターしながら沸騰を途切れないようにと気遣いながら進めます。一度に2升x3段、計18升の米を蒸し続けました。3段重ねの下段から順繰りに、米の固さを食べ、確認しました。気温が下がるとなかなか蒸しあがりません。蒸し場は配食から少し離れた場所でしたが、持ち場に張り付きで頑張ってくれるメンバーがいたお陰で、微調整が叶い、最後まで温かい餅を提供出来ました。配食のスピードに合わせて稼動したもちつき機は、こねた後にもちが張り付いてしまうため、担当者は都度綺麗にはがしてゆかなくてはならず大変でした(味なし餅でお腹がいっぱいになりながらも頑張ってくれました)。天候が悪かったのが残念でしたが、沢山の方にご参加頂き、盛況のまま終わることができたのも後方支援の方を交えた十分な準備と、全員の団結力のお陰であったと思います。全員協力の元予定通り片付けも終了。全体を通し本当に良く協力し合う素晴らしいチームワークが展開されたと思います。



こうするともっと喜んでもらえるかな？

#### 16時 撤収

皆、最後までよく働いた。誰もが疲れた顔を見せ始めたが、黙々と撤収した。片づけのやり方を見て、メンバーの被災地に対する思いを再確認する事となった。どんな事があっても、迷惑をかけたくない。



万騎が原小の生徒さんよりメッセージ

#### 16時15分 コンテナ村商店街到着

たった15分しか滞在時間は割けなかった。しかし、どんどん買い物をする姿が目立った。支援は、餅つきだけでなく、現地にて購入する事でもあると、ご理解頂けていることがよく分かった。

#### 16時半 華夕美 到着

宿到着前、お電話を頂いた。大丈夫ですか？今どちらですか？お気遣い頂き、嬉しくなる。心配をかけてはいけないのだが、温かい言葉に他意はない。柔らかな声に、お礼と、遅刻の謝罪をすると、心配しただけだと笑ってくれた。素敵な宿に泊まれて幸せである。入浴へ。



コンテナ村商店街にてお買物中

#### 18時 夕飯

#### 20時 報告会 ミーティング

沢山の意見が出た。良いミーティングとなった。

#### 1月22日 7時50分 出発

#### 8時10分 蒲鉾 高政へ

早朝にも関わらず、心良く迎えて頂いた。地域復興の先頭に立つ蒲鉾屋さんである。被災地だからでは無く、他では食べられない、高政の蒲鉾。綺麗な店内では、美味しいお茶も振舞われ、ゆっくりとお買い物。



震災後に建てられた高政さん新工場

#### 8時45分 マリンバル女川へ

海産物が多く、市場の様な店である。以前は、女川の町の中心部に立ち、女川の観光、経済を支えた、重要な基盤である。笑顔で迎えて下さる。店員さんももちろん被災者が多いことであろう。新鮮な魚に目を奪われる。買い物支援も楽しい。

## 9時半 東京へ

雪により東北自動車道の一部封鎖が懸念されたものの、ほぼ真直ぐ東京へと戻った。

## 16時半 白金高輪着 片づけへ

### 4. 活動成果

#### (1) 経験、実績を残したこと

- ・バスを使用し、多くの新たなメンバーが女川にて活動できた。
- ・メンバー全員が活動の主旨を理解し、有意義な活動をできた。
- ・チャリティーコンサートにご参加頂いた音楽隊も一緒に活動できた。
- ・各グループのリーダーが出発前から積極的に活動をすすめた。
- ・被災地の方々に応援団の名前を覚えて頂けるようになってきた。
- ・コミュニティー形成、又は、以前の友人との再会の場となった様子があった。
- ・多くのメンバーが被災者と肩を合わせて話しをした。
- ・おながわ災害FMへ出演した。
- ・音楽も含め、多くの笑顔と響鳴した。
- ・大人数での活動にも関わらず、まとまった活動が出来た。
- ・大きな事故、怪我、トラブル無く餅つきを終える事が出来た。

#### (2) 現地の状況を知れたこと

- ・音楽による支援はとても喜ばれる事が分かった。
- ・大きな仮設住宅では、内部の人間もお互いを知らない事が多い。
- ・会話を求める方が多く見受けられた。
- ・被災者の中で、イロイロな温度差が生まれ苦しんでいる事。

#### (3) ネットワークが持てたこと

- ・女川町復興支援センターを始め、各仮設住宅の地区長さんなど、多くのキーマンとネットワークを強く出来てきた。
- ・災害FMの方々と応援団の間に繋がりが出来た。
- ・宇都宮の支援団体アースプレケーションさんと応援団の間に繋がりが出来た。
- ・マリパル女川の理事長 山田さんと繋がりが出来た。

#### (4) 女川における、応援団オフィシャルTシャツ作製・販売

2012年12月より、Tシャツ作製による支援活動を考えてきました。

女川にある、コンテナ村商店街「マルサン」高橋さんにご相談させて頂き、プリントTシャツを作製させて頂きました。

今回の活動と並行し、作製、販売させて頂く事が叶いました。綺麗な赤に白い文字を入れたTシャツです。我々が、支援活動等と言うにはあまりにもおこがましいレベルではありますが、たった110枚のTシャツを喜んで受けて頂き丁寧に仕上げさせて頂きました。もうすでに、完売いたしました。今後もこの様な、微力でも、仕事創出へと繋がる支援を続けて行きたいと考えております。



オフィシャル支援Tシャツ

### 5. 今後の予定

#### (1) 3月女川町 支援活動

次回、女川での支援活動は、また小規模なものに戻り、仮設集会場にて鍋を囲みます。より一層濃いコミュニケーションをとる事により、新たなコミュニティの形成、独りのお年寄りの孤独の緩和に向けてゆきたいと考えております。

(2) 今年も、頑張っぺ東北! 同好勉強会・東日本大震災チャリティーコンサートを開催する予定です。



参加者全員で女川町総合体育館前にて

### 6. 補足事項

#### (1) 参加者 (敬称略/順不同)

工藤 史大	石垣 健	浅野 礼博	佐藤 由香
川端 陽子	相原 朋子	斉藤 秀朋	後藤 奈津子
藤本 佳代子	石川 篤史	下神 妙子	小澤 徹
水澤 秀之	近藤 尚之	府川 めぐみ	石川 稚子
安部 由美	藤原 朗	飯星 広徳	飯星 美樹
難波 嘉峻	三上 加寿子	蜜口 真人	中橋 宣雄

末石 義史

小林 由実

瓜田 創

仙頭 淳子

MAYURI HIRABAYASHI BAND

平林 真百合

石井 千恵子

鹿内 美穂

小林 伸行

木津 努

五十畑 昌寛

末次 誠

安武 芳樹

BUN益田

益田 博文

リグレット

田中 伸輔

田中 ゆかり

弘中 泉

高橋 恒雄

金子 弥真人

大井 敦彦

(2) 協力

横浜市立万騎が原小学校

横浜市立南本宿小学校

(3) 後方支援者 (敬称略/順不同)

港区立三光小学校PTA

橋本 翔二

尚礼会

重秀寺

早川 寧子

石川 重美

勝村 淳

山中 秀樹

鈴木 照子

藤川 芳江

若本 智子

池上 珠子

東福寺 緑

増田 剛志

中村 幸太

森 トシ子

小澤 雅志

小澤 静子

(4) 支援物資提供 (敬称略/順不同)

株式会社にんべん

赤鷄農業協同組合

高級海苔問屋(大阪)

東福寺 緑

東 和明

株式会社シモジマ ラッピング倶楽部

ペーパーウェア株式会社

川尻 由美子

佐藤 智子

角南 澄子

石垣 健

株式会社ミヤコ

宮川内科小児科医院

(5) 支援金寄付 (敬称略/順不同)

ホルモン焼き夏冬

たちばな

白金杯一同

石川 重美

木津 努

三浦 富美雄

辻井 千恵子

相原 朋子

目黒BAR GONE

池田歯科クリニック

東京慈恵会医科大学付属病院NICU 看護師一同

石川 和子

安部 由実

川尻 由美子

樋口 京子

仙頭 淳子

小林 正久

林 至恩

岡野 絵里香

常喜 達裕

工藤 史大

健康アライアンスJP

Rapha 鍼灸・マッサージ 患者募金

常喜 真理

安藤 和美

安藤 理香

竹下 啓

(6) 行政支援 港区防災課 様 「災害派遣等従事車両証明書」の発行

(7) 現地受け入れ先

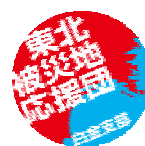
宮城県女川町災害復興支援センター (旧:災害ボランティアセンター) 様

(8) 協力団体

REALeYE (高橋 圭介 様、高橋 一枝 様)

アースプレケーション (高橋 孝明 様、他メンバー5名 様)

皆様からのあたたかいご支援・ご協力のうで成り立っております。 本当にありがとうございました。 継続して被災地への支援活動をしていきますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



平成24年1月30日  
東北被災地応援団 白金支部  
工藤 史大

東北被災地応援団 白金支部 WEBサイト

<http://onagawa.e-ouen.jp>

このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2012 Tohokuhisaiichi-Ouendan All Rights Reserved.